



「とんぼそして幸せの七つ星」
(平成21年10月完成)
カラマツトンネル内南側壁面。
昨年、延べ555人が制作に参加。

1本のサイクリングロードで 人と人がつながる

子どもたちはこのトンネルで、学校では教えられない多くの事を地域の皆さんと一緒に学びました。ここにはいつでも自由に参加できる雰囲気があり、子どもも大人も楽しく作業できました。
今後もサイクリングロード沿いに、この素晴らしい活動が伝わり、多くの地域がつながっていくことを期待します。



大谷地小学校PTA会長
金井 誠司さん (写真左上)
※写真右上は妻あづみさん、下段左から七汐くん(小4)、美瑚都さん(小6)、紗夕葵さん(小3)

みんなのまちについて考えてみる。



ワークショップでは子どもも大人も真剣そのもの。世代を超えて話し合うことで、自分たちの住む「まち」についてあらためて認識を深めることができ、とても意義深い。



(写真左から)
小野寺 佑太くん (中1)
「みんなで作れるのは楽しい」
杉本 圭くん (中1)
『「トンボ」のデザインは実は僕のアイデア。採用された時は驚いたけど、とてもうれしかったです』



タイル割りも重要な仕事の1つ。
これが結構難しい。



プロの仕事の間近で感じる。



年齢に関係なく協力する姿は毎日見られる風景。



みんなの手でステキなまちにしたい。

トンネルから広がる夢

白石区内を走る白石サイクリングロードにはトンネルが15カ所。同様の取り組みがほかのトンネルでも行われ、ゆくゆくは「アートロード」になり、観光スポットの1つとして、多くの人が行き交う光景が見られるとうれしいですね。

栄通19・20丁目内会会長
岩井 準一さん



川原 優輝くん
(小3、厚別区在住)
「最後の7つ目の星を壁に張れて良かったです」

壁画に隠された「幸せの七つ星」。
両壁面には、幸せの願いを込めてタイルでかたどられた星が、それぞれ7つずつ隠されている。すべての星をじっくりと探してみるのも楽しみ方の一つ。

てじっくり取り組むか、気軽に試してみるかは参加者次第。
作業を通して出会った人はみんな大切な仲間。 原田さんと楽しく話しながら手を動かす人もいれば、黙々と作業を進める人もいた。夏真っ盛りの作業中、冷たい飲み物を差し入れるためだけに顔を出す人もいた。一つ確かなことは、みんな自ら進んで参加し、この空間で多くの人と出会い、同じ時間を共有したということ。取り組む姿勢に違いはあれど、作品の完成を目指す気持ちはみんな同じ。

